

夏季埼玉県高等学校野球大会 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

(一財)埼玉県高等学校野球連盟

以下は、(公財)日本高等学校野球連盟が定めた新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに基づき、(一財)埼玉県高等学校野球連盟が策定したものである。

＜都道府県独自の試合・大会の開催条件＞ [日本高等学校野球連盟]
都道府県連盟は次の条件を十分に検討し、都道府県独自の試合・大会の開催の可否を決定する。(中略)
(1) 当該都道府県の緊急事態宣言が解除されている。
(2) 各地の自粛要請、教育委員会等の休校措置、部活動制限の枠組みの中で実施する。
(3) 当連盟の感染防止対策ガイドラインにもとづき、対策を講じる。
(4) 当該都道府県の感染状況を十分に考慮する。
(5) 無観客試合を原則とする。

※(5)補足 入場を認める関係者については、別途、埼玉県高等学校野球連盟において決定する。

【基本原則】

- 1 いわゆる3つの密(密閉・密集・密接)を徹底的に回避する。
- 2 移動前の検温徹底とバスなどによる移動時の濃厚接触を回避する。
- 3 試合と直接関係ない人の来場を避ける。
- 4 参加者から新型コロナウイルス感染症に関する報告があった場合や感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について当該衛生部局・保健所等関係機関と予め検討しておく。

【関係者のカテゴリー】

- 1 大会運営関係者 (連盟役員、審判委員、補助員、警備員等)
- 2 学校関係者 (責任教師、監督、顧問、選手、控え部員、記録員、指導者、保護者)
- 3 メディア関係者 (報道・写真業者)
- 4 その他 (進路関係者)

【共通】

試合に関わる全ての関係者は、試合が開始される2週間前からの行動歴(いつ、どこで、誰に会った、など)を記録しておくこと。

【大会運営関係者(埼玉県高野連)の対策＝事前＝】

- 1 すべての試合は、原則無観客試合とする。
- 2 スタンドへの入場は、使用する球場の利用条件の範囲内において、上記1、2、3、4の関係者に限り、これを認める。
なお、保護者の入場を認める範囲に関しては、以下の通りとする。
ア 3年生保護者 3年生部員1名につき保護者2名まで
イ 上記アの計が20名未満の場合は、1・2年生の保護者も含め、合計20名までの入場を認める。
- 3 メディア関係者のうち、ペン関係の報道関係者については、日本新聞協会加盟の新聞社および日本雑誌協会に加盟する社に所属する記者に限り、球場施設内への入場及び取材を認める。なお、取材場所については、各球場の大会運営役員の指示に従うこと。
- 4 進路関係者のうち、NPBスカウトは1球団につき2名まで、大学・社会人・独立リーグ球団スカウトは1チームにつき1名まで、球場施設内への入場と視察を認める。
- 5 抽選会は、4地区それぞれの会場で実施する。出席は加盟校の責任教師のみとし、いわゆる3つの密に十分配慮して実施する。
- 6 開会式は感染リスクを考慮し、実施しない。

【大会運営関係者(埼玉県高野連)の対策＝試合会場＝】

感染防止のため主催者が実施すべき事項や遵守すべき事項をチェックリスト化したものを会場の受付場所等の適切な場所に掲示する。

「手洗いの励行」、「咳エチケット」、「マスク持参と必要時（受付時や更衣等の運動を行っていないときや会話をする際など）の着用」、「室内の換気」を徹底する。

<検温>

大会運営関係者、メディア関係者など試合会場に入場する全ての人は、入場の際、必ず検温を実施、記録し、37.5℃以上の場合に入場できないこととする。また、発熱がなくても息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさ（倦怠感）等がある場合も同様とする。

<対策>

- 1 消毒液を球場入口、1、3塁ダッグアウト等必要と思われる場所に設置し、定期的に補充する。
- 2 大会役員、補助員など大会運営スタッフはマスク着用とする。
- 3 入場管理を徹底できるよう、出入口を限定し、それ以外の出入口は封鎖する。
- 4 ダッグアウト内が密集になる可能性があるため、横並びに座る、なるべく人と人との距離をとるなどの対策をできる限り講じる。ダッグアウト内でマスクを着用することは差し支えない。
- 5 控え部員および保護者の観戦は、スタンドで行い、一人一人の間隔を2m以上とって観戦するように指導する。また、大声での応援はせず、拍手での応援を基本とする。
- 6 本部室、放送室、記録室が密室、密集にならないように工夫し、できない場合はアナウンス、BSOはなしで試合を進める。マイクを使用する場合、マイクカバー使用や消毒を行うなどして、飛沫感染防止につとめる。
- 7 同じ球場で複数試合を行う場合は、試合ごとにダッグアウト内を清掃、消毒を行う。その際、責任教師、スタンドを担当する責任職員に対し、その作業に係る指示を行う。消毒箇所は、ベンチ、手すりなど不特定多数の者が接触する場所とする。このため、前の試合の出場チームが球場から完全に退場した後に、次チームが入場することとする。
- 8 球場内諸室のドアノブ、トイレドアノブなど不特定多数の者が接触する場所は定期的な消毒につとめる。
- 9 チームが球場から退場した後は、基本原則1に従い、その場に滞留することなく、速やかに解散するよう指導する。

【大会運営関係者（埼玉県高野連）の対策＝試合＝】

- 1 オーダー交換の際は、マスクを着用し、握手は行わないこととする。伝達事項は、事前に文書等にまとめておき、口頭での説明は最小限にとどめる。
スタンド担当の責任職員への注意事項の説明も同様とする。
- 2 球場には、前の試合のチームが球場から退場した後に入場させる（完全入れ替え制）。
- 3 試合前後の挨拶（整列）は、間隔を適度に空け、黙礼とする。

【学校関係者の対策】

- 1 指導者、選手、記録員、補助員、控え部員は試合当日起床後、自身で検温し、チーム集合時に別紙検温確認表を作成し、同表を試合会場到着時に球場本部に必ず提出する。
- 2 検温の結果、37.5℃以上の者は、大会会場への来場は自粛する。体調が良くない場合も同様とする（発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）。
- 3 球場への移動の際はマスクを着用する。試合会場には消毒液を設置しているので、こまめに活用し、感染予防につとめる。
- 4 必要に応じ、控え部員が距離を置いて並ぶことができるような目印の設置等を行うこと。
- 5 熱中症予防にも十分に配慮することとし、水分補給等を行うが、各人のペットボトルや使い捨て紙コップなどを用意し、飲み回し等を行わないようにする。
また、マスクを常時着用すると体力消耗にもつながるので着用する場所としない場所のメリハリをつける。
- 6 飲食については、周囲の人とは対面を避け、会話は控えめにする。
- 7 球場には、前の試合のチームが球場から退場した後に入場する（完全入れ替え制）。
- 8 試合前の練習等でも3つの密を避けるように、十分な間隔をとる工夫をすること。
- 9 円陣を組むなどは密集にならないように配慮し、試合中マウンド上で集合する際は、グラブを口にあてることとする。
- 10 試合に出場していない指導者、選手、記録員などのマスク着用については、制限しない。
- 11 試合中はダッグアウトでの大きな声を出しての応援は控える。素手でのハイタッチ・握手を控え、ボールも含めた共用の用具を触った手で目・鼻・口を触らない。

- 12 スタンドに入場する保護者の名簿を作成し、球場本部へ1通提出する。保護者も起床時に検温し、名簿に検温結果を記入するものとする。37.5℃以上ある場合は入場することはできない。また、球場によっては、別途、管理する自治体への名簿の提出を求められる場合もあるので、球場本部の指示に従うこと。
出場校はスタンドを担当する責任職員を配置し、速やかな対応に備えること。
- 13 感染症予防に係る消毒作業等については、以下の通りとする。作業に使用する消毒液、タオル、雑巾等については、各チームで予め準備する。
ダッグアウト：大会運営役員指示の下、チームで清掃、消毒作業を行う。
スタンド：大会運営役員指示の下、スタンドを担当する責任職員は、控え部員、保護者に対し、清掃、消毒作業を指導する。控え部員、保護者ともに各々が使用した区域の清掃、消毒作業を行う。ゴミは捨てずに持ち帰る。
- 12 球場から退場した後は、基本原則1に従い、その場に滞留することなく、速やかに解散する。

【メディア関係者への対応】

- 1 来場したメディア関係者は球場入口で必ず検温し、37.5℃以上の場合は、入場を断る。
- 2 受付で記者証（腕章可）による所属確認の後、名刺を提出し、高野連用意の報道用リボン（以下、リボン）を受け取り、入場すること。
※取材を認めるペン関係の記者は【大会運営関係者（埼玉県高野連）の対策＝事前＝】3に限る。
- 3 球場内では、リボンと腕章を常に見えるところに携帯すること。
- 4 記者室はいわゆる3つの密の状況にならないよう工夫し、回避できない場合はスタンド等で取材を行う。
- 5 球場施設内では大会運営役員の指示に従って取材を行う。
- 6 試合終了後の取材はスタンドを基本とし、チーム関係者とメディア関係者は2m以上離れることとする。
- 7 時間を限定し、最小限で取材を終えることとする。
- 8 球場から退場する際は、リボンを返却すること。来場記録のため名刺は返却せず、大会本部で保管する。

【進路関係者への対応】

- 1 来場した進路関係者は球場入口で必ず検温し、37.5℃以上の場合は、入場を断る。
- 2 受付で所属と氏名を確認の後、名刺を提出し、高野連用意のIDを受け取り、スタンドへ入場すること。ただし、NPB関係者についてはNPBのスカウト章を高野連IDの代わりとする（名刺は受け取る）。
- 3 試合視察は、スタンド内の大会運営役員が指示した場所で行う。
球場内では、IDを常に見えるところに携帯すること。なお、NPB関係者は、各球団の発行するスカウト章を常に見えるところに携帯すること。
- 4 球場から退場する際は、リボンを返却すること。来場記録のため名刺は返却せず、大会本部で保管する。
- 5 その他の事項については、大会運営役員の指示に従う。

【大会前に関係者から感染者等が発生したときの対応】

- 1 感染者が発生した場合の対応

大会関係者	：接触歴を確認し、濃厚接触者は判明日から2週間、自宅待機とし、別の球場役員が運営にあたる。
チーム関係者	：感染者以外の指導者、部員は基本的に濃厚接触者となるため、参加校は試合への参加を自粛（辞退）する。これにより不戦敗となる。
メディア関係者	：接触歴を確認し、濃厚接触者になる場合は会場への来場を許可しない。
その他	：接触歴を確認し、濃厚接触者になる場合は会場への来場を許可しない。
- 2 濃厚接触者となった場合の対応

大会関係者	：当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰可とする。
チーム関係者	：チーム関係者以外の者が感染者となり、自身がその濃厚接触者である場合は、当該者は自宅待機とし、その者以外の指導者、部員で試合に参加することは可とする。
メディア関係者	：会場への来場を許可しない。
その他	：会場への来場を許可しない。

- ※ 罹患者が発生した場合、本人が発症2日前から現時点までの行動歴を明らかにすることが重要である。大会役員、審判委員、記録員、参加校関係者など試合に関わるすべての者は、試合が開始される2週間前からの行動歴（いつ、どこで、誰に会った、など）を記録しておくこと。

【大会中に関係者から感染者等が発生したときの対応】

関係機関と連携し、協議の上、対応する。その際、状況によっては大会を中止することもある。

【大会後に関係者から感染者等が発生したときの対応】

- 1 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかにその旨と濃厚接触者の有無を報告すること。
報告先は以下の通りとする。
 - I 大会運営関係者、メディア関係者、その他の関係者： 埼玉県高野連
なお、報告を受けた埼玉県高野連は埼玉県教育委員会とその報告に関する共有を行うこと。
 - II チーム関係者： 当該者の所属する学校の責任教師
なお、報告を受けた当該校責任教師は、所属校並びに埼玉県高野連へ報告すること。
また、報告を受けた所属校は埼玉県教育委員会へ報告すること。
- 2 感染者が発生した場合、各校責任教師は、感染者を特定しようとすることやSNSで誤った情報を発信することのないように生徒に適切に指導すること。

【大会中止の要件】

- 1 緊急事態宣言が再発令された場合
- 2 県教育委員会等により全県に休校措置が講じられた場合
- 3 球場の使用制限等、関係諸機関の指示により試合実施が不可能となった場合
- 4 大会運営上に支障を来す事態が生じた場合